

Title	インドネシアの古代歌謡, シャイルについて
Author(s)	中西, 竜雄
Citation	大阪外国語大学学報. 47 p.43-p.67
Issue Date	1980-03-01
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80775">https://hdl.handle.net/11094/80775</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# インドネシアの古代歌謡, シャイルについて

中 西 龍 雄

## Tentang "Syair", Ikatan Puisi Lama Indonesia

Ryuo NAKANISHI

Selaras dengan pantun, puisi lama Indonesia terdapat pula "syair" yang berlainan ragamnya dengan pantun. Pada umumnya disangka bahwa syair itu didatangkan ke Indonesia dari Arab melalui Persia pada akhir abad ke-13. Tetapi kenyataannya tidaklah demikian melainkan tercipta oleh tenaga orang Indonesia sendiri dengan mengisap azas-azasnya dari dalam ikatan Arab-Persia, hal mana dapat dibuktikan berbagai-bagai bahan kuna.

Sudah barang tentu syair itu berlainan dengan pantun sehingga tidak diindahkan oleh rakyat jelata, disebabkan karena puisinya yang panjang-panjang hanya saja dibacakan bernadah. Dalam disertasi ini saya menjelaskan waktu datangnya orang Arab di Indonesia, bentuk syair dsb. Sesudah itu dipertimbangkan pula baik buruknya syair, ditilik dari segi sajak, dan tua mudanya syair, ditilik dari sudut gigi usia syair dengan memakai berbagai contoh. Untuk mengetahui bedanya pantun dengan syair saya coba mengadakan perbandingan dengan kedua ikatan puisi lama di Indonesia.

Selanjutnya untuk dijelaskan luasnya bidang syair saya mengadakan pula klasifikasi syair dari segi isinya. Dengan jalan demikian pembaca dapat memahami seluk beluknya syair sehingga akhirnya bisa mengira-ngirakan kemungkinan perkembangan syair dimasa yang akan datang.

### は じ め に

インドネシアには古代歌謡パントウン (Pantun) と並び、パントウンとは形式や性格を異にするシャイル (Syair) や、その他の詩歌セロカ (Seloka), グリングム (gurindam) などがある。

一般にシャイルは13世紀末、アラビアからペルシアを経て、他のアラビア文化と共にインドネシアに齎されたものであると考えられているけれども、事実はそうではなく、アラブ・ペルシア詩の要素をとり入れて、インドネシア人自身の思考力と創造力を以て、現在見られるような一定の形態の詩がつくられたのである。このことは、古来よりインドネシアには、シャイルの如き詩が見られないという事実により明らかである。シャイルはインドネシアの固有詩パントウンと異り、音譜を付して朗詠する物語詩であるので、インドネシア人の興味の対象になり得なかった

のも事実である。

この小論においては、イスラムの渡来、シャイルの由来、形式・韻のよしあし、パントゥンとの比較、シャイルの時代性、シャイルの分類学的考察などさまざまな見地から、シャイルの全貌を研究し、今後の発達の可能性を探ぐる。

### イスラム教の渡来

イスラム教とその文化潮流がインドネシアに始めて渡来したのは13世紀末であるといわれている。しかし、それ以前にイスラム教を奉じている者がインドネシアにいなかったかという点、そうでもない。グリセ (Gresik) の近くのレラン (Leran) で、アラビア文字の碑文が発見されたが、それはイスラム教婦人信者ファティマ ビンティ マイムン (Fatimah binti Maimun) の石碑で、年代は西暦1082年の可能性が強い。それからのちは1292年ベネチアのイタリア人、マルコポーロ (Marko Polo) が、海路中国からペルシアへ向う途中、スマトラ島のアチェに立寄った当時は、西インドのグジャラートの商人が活発にイスラム教の布教をしていたと言われるが、そのような事実よりみて、その当時、この地域の住民はまだイスラム化していなかったと言える。しかし、このような状態は、サルタン マリク アル サレ (Malik Al-Saleh) が他界した1297年以後は、状況が一変し、パサイ、サムードラ (Pasai, Samudra) は平和理にイスラム化が進められた。

イスラム教がインドネシア全域に伝播した理由は、マラッカの興隆発展にかかる。マラッカは東西貿易の一大集散地として、東方からは中国の特産物やインドネシアの香料、東方からは中国の産物が集まり、繁栄した。イスラム教のインドネシアに対する布教活動は、マラッカを基地として積極的に行われ、イスラム文化はそれから数世紀後には、ヒンズー文化を平和理に制圧・駆逐し、バリ島を除く全インドネシア地域に深く滲透し、現在に到っている。グジャラートの商人によりインドネシアに齎らされたイスラム文化は、アラビアから直接ではなく、ペルシアを経由しているので、古マレー・インドネシア文学にはアラブ・ペルシア文学の要素が採り入れられ、一時代を劃するいわゆるアラブ・ペルシア文学時代を現出した。殊にアラビア文字の導入は、従来の古マレー・インドネシアの言語・文学に重大な変革を齎らし、その発達に貢献するところ頗る大なるものがあつた。

言語の分野においては、もちろん、多くの語彙がインドネシア語の中に導入されたばかりでなく、文法組織が解明されて古マレー・インドネシア語の表現が豊かになり、その後ひき続き来航した欧人により齎らされたラテン文字の使用を容易にした。

一方、文学の分野において、彼等の齎らしたものをみると、イスラム教義関係書、マホメットに関する物語、予言者に関する物語、イスラム勇士に関する物語、民族英雄物語、イスラム史書、その他、Hikayat (物語) を中心とする数多くの文学書があるが、その中にはさまざまな詩歌もある。

## シャイル本来の意義

インドネシアに齎らされた外国文学のうち、とりわけシャイルは詩歌の分野で、インドネシア文学を豊かにするために重要な役割をはたしていることも事実である。شعر (shi'ir) というアラビア語は、現在インドネシアで見られるような特定の意味をもつものではなく、詩歌一般を意味するものである。13世紀末イスラム教及びその文化がアラビアからペルシアを経て、スマトラ北端の開港都市サムードラ、パサイに渡来したときに、はじめてインドネシアの住民はシャイルというのは、どのような詩歌であるかを知ったのである。

スラカルタやジョクジャカルタにある王宮にいる貴族のみならず、一般のイスラム教徒によく知られているタジュール サラティン (Tajul Salatin)、すなわち、「イスラム諸王の王冠」は、1603年アチュ王国の王宮があったマハコタ アラム (Mahkota Alam) において、イスラム教文学者ブカリ アル ジャウハリ (Bukari al-Jauhari) により書かれたもので、24章からなり、イスラム教の唯一の神であるアラーに対する義務と正義の擁護、王と人民の関係、使節と官吏の責任、文筆家に対する評価などを内容としているが、その中でブカリはシャイルについて述べている。しかし、そのシャイルはマダハ (Madah) またはマスナウィ (Masnawi)、ルバイ (Rubai)、キタハ (Kit'ah)、ガザル (Gazal) およびナザム (Nazam) などアラブ・ペルシア詩一般を意味するもので、現在インドネシアで知られている形態のシャイルではない。

Masunawi (Madah)——各節 2行づつ韻を合わし、各行10——14語からなる。内容は主として偉大な行績、功労を讃え、主要な出来事を後世に伝える詩。

Rubai——1節 4行からなり、各行は11——13音節で構成される。内容は忠言、称讃、神秘などに関するものが多い。

Kit'ah——行数、節数、韻などの規定をもたない断片詩。

Gazal——8行からなり、各行は通常20——22音節で構成され、同じ語で終る。各行とも終りから2番目の語に押韻する詩で、ペルシアから由来する。

Nazam——12行からなり、2行づつまたは4行づつ押韻する詩で、王や補佐官を称える詩。

これらの詩の形態（各註参照）をみると、現在見られるシャイルとは、程遠いものがあることがわかる。殊に詩の内容に到っては頗る哲学的で、イスラム教の哲理に明るい者でなければ、理解し難いものが多い。アラビア語はその発達を辿れば、モハメット ハシム ダイブ (Mo-hamed Hashim Daib BA) が述べているように、アラビア語で言う Jahilia (イスラム教紀元前) の時代から始まり、7世紀になってようやく一定の形ができた。インドネシア文学の権威ライデン大学教授ホイカース (Prof. Hooykaas) によれば、その詩の形態は外来のものでなく、インドネシア固有のもので、術語の借用は術語を借用したシャイルの原初形態とは、異なる詩を名づけるために用いたものであると述べている。

ホイカースの意見のみをもって、直ちにシャイルをインドネシア固有のものと容認することは、実証性に欠けるので、現在までにインドネシアで発見された最も古い詩は、どのようなものであ

ったかを見ることにしよう。インドネシアで発見された最も古い詩は、スマトラ島ミニェ トウ  
ジョ (Minye Tujuh) で発見されたパサイ王の碑文で、一つの刻文はアラビア文字で書かれ、他  
の一つは古マレー語にサンスクリット語やアラビア語の混入したものである。ステュテルハイム  
博士 (Dr. Stutterheim) によれば、ミニェ トウジョの碑文は1380年他界したパサイ王に対する  
祈願文で、それをローマ字になおすと、概ね次のようになる。

hijrat nabi mungstapa yang prasida  
tujuh ratus asta puluh swarsa  
haji catur dan dasa warsa sukra  
raja iman warda rahmat Allah  
gutra barubasa mpu hak kadah pasema  
taruk tasih tanah smuha  
ilahi ya rabbi tuhan samuha  
taruh dalam swarga tuhan

イスラム暦紀元後、すなわちイスラム暦781年12  
月14日金曜日愛人が亡くなったのち、アラー神に  
対する信仰の篤いバルボア族の王は、全海陸を征  
服し、ケダとパサイに王権を確立した。アラー神  
よ、至高なる神よ、陛下を神柱の中に加え給え。

このミニェ トウジョの石碑に見られる詩の形態は、節を構成する各行の最後の語の最終音節が、  
同じ韻であることを示している。しかし、詩の形態における強勢や音節数からすると、ミニェ ト  
ウジョの石碑に刻まれた詩は、現在のシャイルが必要とする条件から、遠く離れているという視  
点にたつて、モリソン (Morison) は、スマトラ文字におけるマレー詩 (a Malay poem on Suma-  
tran character) と題する論文において、1380年の記銘を有するミニェ トウジョの石碑にみられる  
詩は、現在のシャイルの形態ではなく、サンスクリット詩の形態で、このような詩形は1380年代  
のジャワ文学にも見られることを明らかにしているが、セロカ詩 (Seloka) で代表されるサンスク  
リット詩は、マレー・インドネシアにおいて見られるものとインドにおけるものとは理念的に異  
なったものになっていることを附言しておきたい。

古インドネシア文学において、ミニェ トウジョの石碑に見られる詩より古い詩は、樹皮やロ  
ンタール (扇椰子の葉に書かれた古文書) に書かれたものも見当らない。現在見られるような形の  
シャイルがインドネシア人によりはじめてつくられるようになったのは、ミニェ トウジョの詩が  
石碑に刻まれた1380年以後のことである。詩歌は自由詩を除き、通常それが成立するためには、  
成立に必要な原則に従っている。

## 現在のシャイル

現在みられるインドネシアのシャイルも例外ではなく、シャイルが成立するために必要とする

規矩のうえにたって成立している。すなわち、シャイルは如何なる場合も4行から成り、その脚韻はAAAAの形式をとるが、稀に変形している場合もある。頭韻は一定しないのが原則であるが、まれに特定の意図をもって揃えてあるものもある。中間韻も意図的である場合を除き合わす必要はない。韻は完全韻、不完全韻のいずれでもよい。音節数は8—13音節であるが、一般には10音節のものが多く、語数になおすと4—5語のものが多数を占め、各行には4箇所が強勢が置かれる。いま普遍的な形態とすぐれた韻律をもっている典型的なシャイルの例をあげ、その条件を充しているか、どうかを検討することにしてよう。

#### Syair Abdul Muluk

Sudah bertitah raja yang gana,  
berangkat masuk ke dalam istana,  
akan Mansur yang bijaksana,  
mengerjakan titah dengan sempurna.

Telah datang keesokan hari,  
berhimpun sekalian seisi negeri,  
serta dengan anak isteri,  
Mansur menghiasi balairung sari

Orang mengatur sudah selesai,  
dari istana sampai ke balai,  
indah rupanya tiada ternilai,  
segala yang melihat heran dan lalai,

Beberepa kali meriam dipasang,  
bersambutan dengan gong dan gendang,  
joget dan tandak topeng dan wayang,  
tiadalah sunyi malam dan siang.

Akan segala hulubalang menteri,  
penuh sesak dibalairung sari,  
menghadap baginda sultan bestari,  
setengah bermain catur baiduri.

Demikianlah kerja paduka sultan,  
sehari-hari minum dan makan,  
dagang senteri semuanya dihimpunkan,  
berbagai jenis tambul angkatan.

#### アブドゥル ムルックの詩

全能の王は命じた。  
王宮の中へはいるために出発せよと、  
賢明なマンスールは、  
王の命令をぬかりなく遂行した。

あくる日がやってきた、  
全国民の総ての者が集まった、  
妻や子供と共に、  
マンスールは謁見所を飾りつけた。

用意はすでにでき上った。  
王宮から謁見所まで、  
言葉で言えぬほど美しい、  
見るもの凡てが珍しくもの憂げだ、

数回祝砲が装填され、  
銅鑼と太鼓で歓迎された、  
舞踊や仮面踊りと影絵芝居など、  
夜も昼も賑やかだ。

すべての司令官や大臣で、  
謁見所はたて込んでいた、  
博学のサルタン陛下に拝謁したり、  
ある者はオパル石将棋をする。

サルタン陛下の祝宴はそうように、  
毎日飲み食いの日であった、  
異国の人々は皆集められ、  
さまざまに馳走が出された。

Syair Yatim Nustapa

Perdana menteri menyembahlah segera,  
mengerjakan titah seri betara,  
menghimpunkan rakyat bala tentara,  
dua tiga laksa pada kira-kira.

Setelah lengkap alat senjata,  
rakyat berkampung di dalam kota,  
lalu bertitah duli mahkota,  
”Sekarang apakah bicaranya kita!”

Baiklah kita keluar negeri,  
mengeluarkan musuh berperiperi,  
sementara belum ia kemari,  
beta juga hendak keluar sendiri.

Gemparlah orang tidak terperi,  
mengatakan ”Musuh sudah kemari!”  
sekaliannya sudah keliling negeri,  
bagindapun bertitah kepada menteri.

Baiklah disuruhkan rakyat kita,  
naik ke atas bangunan kota,  
suruh hujani dengan senjata,  
tutuplah pintu kota kita.

Bagindapun naik ke atas kuda,  
diiringkan menteri tua dan muda,  
mengerahkan rakyat mana yang ada,  
ada yang bergajah, ada yang berkuda.

Menteri penggawa, huluhalang dan johan,  
ramainya tidak lagi ketahuan,  
senjatanya turun seperti hujan,  
menderunya tidak lagi ketahuan.

Adapun akan maharaja muda,  
serta dengan Dewa Persada,  
menyuruh merobohkan kota yang ada,  
”Masuk ke dalamnya jangan tidak.”

悲しき孤児の詩

宰相は直ちに王に申し上げた  
神の仰せを実行に移すことを、  
人民と軍隊を集めさせた、  
凡そ二、三万人を。

武器が完備したのち、  
人民は城の中に集まった、  
それから皇太子は命じた、  
「さて、我々は何を論議するのだ」。

我々は国の外へ出た方がよい。  
敵を出せと強く言っているが、  
まだ彼等はこちらへ来ない。  
わしも独りで出たい。

言葉で言えない程人が騒いでいる、  
敵は「もうこちらへ来た」と言って、  
皆の者はすでに国のまわりにいる、  
陛下は大臣に命じた。

我等の人民に命ずるがよい。  
城のやかたの上にのぼれと、  
武器を雨霰と降り注げ、  
我々の城の戸を締めよ。

陛下は馬上の人となり、  
老いた大臣や若き大臣を従えて、  
いる人民は皆召集した、  
象に乗る者あり、馬に乗る者もいる。

勇敢な大臣、司令官と勇士たちで  
賑わいは測り知れない、  
武器は雨のように降りそそぎ、  
凄じい音はとてもものすごかった。

ところで副帝王は、  
プルサダの神と共に、  
まだある城を壊すよう命じた、  
「中にはいってはいけない」と、

Berhimpunlah pahlawan adi perkasa,  
menteri hulubalang tujuh belas laksa,  
gagah berani seperti raksasa,  
dirobohnya kota habis binasa.

Cokmar dan gada dipalukan,  
kota kaca dirohohkan,  
kebinasaannya tidada lagi terperikan,  
pecah belahnya seperti pinggan.

#### Syair Bidasari

Teruslah ke kampung seorang saudagar,  
Jalannya sulit terlalu sukar,  
Berhentilah baginda diluar pagar,  
Berhentikan lelah seraya bersandar.

Titah baginda raja Sultan,  
Hendak masuk tiada berani,  
Kampung siapa gerangan ini,  
Baiklah aku berhenti disini.

Puteri menangis seraya berkata,  
Kakanda, wai apa bicara kita,  
Sakit perut rasanya beta,  
Berdebar lenyap didalam cita.

Masygul baginda tiada terkira,  
Hilanglah budi lenyap bicara,  
Berkata dengan perlahan suara,  
Kalau tuan hendak berputera.

Marilah tuan kita berjalan,  
gagalah sedikit perlahan-lahan,  
mencari sungai tempat berhentian,  
supaya kita jangan kesusahan.

Berjalanlah baginda laki isteri,  
sambil baginda memimpin puteri  
tepi sungai juga hendak dicari,  
dua tiga langkah singgah berdiri.

若くて名の聞こえた勇士が集まった,  
大臣, 司令官など17万は,  
羅殺のように勇猛であった,  
城はことごとく破壊されて終わった.

戦闘用棍棒で叩いて,  
城は壊され, ガラスがわれ,  
その破壊された様子は言葉で言えない.  
こっぴみじんに鉢をわったようだ,

#### 天女の詩

ある一人の商人は真すぐに村へ行った,  
道は込み入って頗るむづかしかった.  
陛下は垣根の外で止まり,  
凭れながら疲れを休めた.

サルタン陛下が言った,  
いったい誰がいる村だ,  
這入りたいが勇気がない,  
わしは、此処で休むがよい

王女は言いながら泣いた,  
あなた, 何をお話になるの,  
わたしは、お腹が痛い,  
鼓動するのが感じられて消えてゆく.

王は言葉に言えない程悲しかった,  
思考力はなくなり, 言う言葉も消えた.  
ゆっくりとした声で言った,  
王子を持とうと思うなら,

さあ, 一緒に歩こう,  
ゆっくりと少し勇気を出せ,  
やすむ河を探そう,  
我々が困らないように,

王夫妻は歩みを運ぶ,  
陛下は王女の手を携えながら,  
川端を探そうとして,  
二, 三歩歩いては立ちどまる.



Setelah baginda sampai ke pantai,  
dilihatnya perahu di atas pantai,  
lengkaplah sekalian kajang dan lantai,  
baiklah puteri duduk berjantai.

Bulan pun sedang purnama raya,  
terang cuaca sangat bercahaya,  
puteri nan sakit tiada berdaya,  
baginda pun belas memandang dia.

Sepoi-sepoi angin Selatan,  
berkoklah ramai ayam di hutan,  
dengan merak bersahut-sahutan,  
seperti mengelu-elukan anak Sultan.

王は岸边へついてから、  
海辺にある小船をみつけた、  
凡ての敷物や床も完備している、  
王女が脚を垂らして坐るのによい。

月は満月である、  
晴朗の蒼空は輝いている、  
病気の王女に施すべき術がない。  
陛下は彼女をみて憐み給う。

南風はそよそよと吹き、  
森の中で鶏が鳴いて賑やかだ、  
孔雀と互いに呼び合っている、  
サルタン王子を迎えるかのように。

#### シャイルの韻のよしあし

上に述べたシャイルはいずれも、Syair Abdul Muluk, Syair Yatim Nustapa, Syair Bidasari などから抜萃したものであるが、これらのシャイルはすべて、千数百節以上にわたり、物語を詠んだ古い時代の作品である。そのうちのどれをとりあげても明らかな如く、各行の脚韻はAAAAの形式をとり、音節数は8—13音節で、語数にして4—5語となり、さきに述べたシャイル成立の条件を充している。形式と同様、韻は内容と相俟ってシャイルの内容が優れているか、どうかを決定する極めて重要な要素である。各行の脚韻がAAAAであるからといって、そのAはすべて同質のAであるとは限らない。シャイルの韻の質は脚韻の最終音節にくる母音、子音の如何によって、優れたもの、やや優れたもの、よくないものなどに分たれる。

すぐれた韻律は各行の最終音節が、たとえば ganti—berhenti—nanti—bakti などのごとく同じ韻を踏む。従って上に掲げたシャイルの例における脚韻は、すべて優れた韻律をもつシャイルであると言える。

やや優れた韻律というのは、各行の最終音節の母音が同じで、たとえば, ke mana—delima—datangnya ke sana のごとく m, n, ng などの鼻音子音により先行されるとき、または各行の最終子音とその前の母音が同じである場合、たとえば emak—beranak—dongak—banyak などのように鼻音子音により先行される場合である。

韻律はややよいが、質が低下するものは、benci—pagi—kaki—hari などのように同じ最終母音をもつが、その前の子音を異にするか、またはmemakai—bagai ternilai—mencapai などのごとく最終音節は等しく二重母音であるが、それと先行する子音が異なる場合である。同様に datang—panjang—memandang—garang などのように、各行の最終子音が鼻音 ng で、その前の母音は同一のものであるが、それに先行する子音がそれぞれ異なる場合、韻律は

よいが、質は低下する。

よくないが受け容れられる韻律には、最終音節が殆んど同じで、siram—siang—sekalian などのごとく m, n, ng など異なる鼻音で終るものがある。また、各行の最終音節の子音がそれぞれ異るとき、例えば sudah—sendal—sedar—pedas などとはよくない韻律とされている。

このような韻律の質の優劣のうえからみて、さきに述べたシャイルは、凡て優れたシャイルと言えよう。

形式のうえから Syair Abdul Muluk, Syair Yatim Nustapa, Syair Bidasariなどをミニエ トウジョで発見された1380年の記銘を有する石碑の「詩」と比較すると、まず第一に語数と脚韻に原則的な相違が見られる。

マレー・インドネシアにおける大部分のシャイルは16世紀末以後にあっては、ハンザ ファンスリ (Hanza Fansuli) により創作されたものと同じ形態で、その脚韻形式は、原則的には AAAA である。しかし、Syair Yatim Nustapa には ABAB の脚韻形式をもったものも稀にある。これはシャイルの伝統的な形態から逸脱しているが、連続した二つの節をよく考察すると、第一節の2行目が第2節の1行目にきていているところよりみて、尻取式パントウンであることがわかる。おそらく Syair Yatim Nustapa の中に掛け合いパントウンが挿入されたものである。また1900年以來シャイルはその伝統的な形態である AAAA 形式を離れ AABB という脚韻形式をもつものがみられる。このような形式の脚韻はザバ (Zabb) も指摘しているごとく、シャイルの創作によく用いられるもので、古い慣習的な形態に満足できず、より自由な形式のシャイルを創り出そうとする創意工夫の現われであるとみてよいであろう。サイッド ナグイブ アル アタス (Sayed Naguib al-Attas) はマレー シャイルの起源 (Origin of the Malay syair) において、古い時代のシャイルを代表するハンザ ファンスリ (Hamza Fansuli) の創作にかかるシャイルにあっては、AABB の脚韻形式はなく、すべて AAAA の形式であることを明らかにしているが、若し AABB の形式によるものがあれば、それはアラビックで書かれた原典をローマ字におすときに生じた誤りであると推測される。Syair Bidasari には ABBA の脚韻形式をもったものもあるが、これも同様に考えるべきであろう。

しかし、古い時代に創作されたシャイルではなく、近代におけるシャイルにあっては、ABBA 形式のシャイルが普遍的にみられる。これはより自由な形式で思想を表現し、韻律を美化するため、プージャンガ バルー時代 (Pujangga Baru) 1933—1942年の詩人たちにより、好んで用いられたイタリアのダンテ (Dante) に起源をもつソネタ詩 (Sonet) の影響によるものと考えられる。

シャイルは元来物語を詠吟する詩であるから、韻律に均衡がとれていなければならない。韻律が不均衡であるときは、聴き手に不快の念を生ぜしめることになる。その均衡性は伝統的なシャイルの形態に存在するのであるから、如何なる場合においても、韻律の基本的形態から逸脱してはならない。

## シャイルの時代差

現在見られるような形態のシャイルは、その発祥をいつ頃に求めることができるかという問題は、シャイルの研究を進めるうえにおいて極めて重要である。しかし古い時代の資料が欠如しているため、この問題を正確に解決することは、新しい資料が発見されない限り、殆んど不可能に近いと言わねばならない。オランダのライデン大学ティユ教授 (Prof. Teeuw) は、シャイルに関する研究において、その発祥について「シャイル」という語は1600年頃まではアチェでは詩一般を表わし、1603年に上梓されたタジュール サラティン (Tajul Salatin) には、シャイルと同じ形態をもつ詩は如何なるものも見られない。これは1600年以前においては、いわゆるシャイルと呼ばれる詩は、存在しなかったことを意味するもので、現在みられるシャイルの最も古い形態はハンザ ファンスリ (Hamza Fansuli) の作品であると述べている。

シャイルの起源についてティユと同じように考えているものにズベル ウスマン (Zuber Usman BA) がいる。彼は古インドネシア文学 (Kesuastenraan Lama Indonesia) において、1380年の碑銘を有するミニェ トゥジョの石碑にある詩を考慮に入れて、シャイルはポルトガルの侵略によるマラッカの陥落 (1511) 以前に、すでにマレー社会において知られていたが、現在のごとき形態をもち、創作年代を明らかにすることができるものはサルタン イスカンダル (Sultan Iskandar) 1606—1636年の時代に、アチェに生存していた神秘学者ハンザ ファンスリーの創作によるシャイル以後のことであると述べ、ティユと同じ見解を示している。

サルタン イスカンダルの時代はアチェの勢力がスマトラ中、北部、リオ・ルング諸島、マレー半島南部に及び、王宮を中心として文化が栄え、内外から多くの文学者がアチェ王宮に集まった。そのうちにはインドネシア文学史に大きな足跡を残したハンザ ファンスリ (Hamza Fansuli), サムスディン アル サマトラニ (Samusudin al-Samatrani), シャイカ ヌルディン イブン アルラニリ (Syaiakah Nurdin ibn al-Raniri), ブカリ アル ジャウハリ (Bukhari al-Jauhari) などがいたが、これらの文学者のうちでも、時にハンザ ファンスリは当時の神秘学の権威として、イスラム文学者のあいだに名声を謳われた。彼を讃えるシャイルにも明らかなごとく、ハンザ ファンスリはバロース (Baros) に生まれ、長じてパハン (Pahang), バンテン (Banten), クードス (Kudus), ナウイ (Nawi), メッカ (Mekkah), メジナ (Medina) などを巡遊して、信仰を深めるかたわら、文学に対する視野を広め、研究心を強めた。

彼の詠んだシャイルには、Syair Perahu, Syair Dagang, Syair Burung Pinggai, Syair Burung Pungguk, Syair Sidang Fakir など神秘と精神生活、人間と神の関係、神秘幽玄の世界と現世に関するものが多い。ここでは彼の作品のうち、有名な Syair Perahu の詩数節を抜萃して掲げることにする。

## Syair Perahu

Perteguh jua alat perahumu,  
muaranya sempit tempatmu lalu,  
banyaklah disana ikan dan hiu,  
menepati perahumu lalu dari situ.

Muaranya dalam ikanpun banyak,  
di sanalah perahu karam dan rusak,  
karangnya tajam seperti tombak,  
ke atas pasir kamu tersesak.

Ketahui olehmu hai anak dagang,  
riaknya rencam ombaknya garang,  
ikan pun banyak datang menyerang,  
hendak membawa ketengah sawang.

Muaranya itu terlalu sempit,  
di manakah lalu sampan dan rakit,  
jikalau ada pedoman dikapit,  
sempurnakanlah jalan terlalu baid.

Baiklah perahu engkau perteguh,  
hasilkan pendarat dengan tali sauh,  
anginnya keras ombaknya cabuh,  
pulaunya jauh tempat berlabuh.

Lengkapkan pendarat dan tali sauh,  
derasmu banyak bertemu musuh,  
serebu rencam ombaknya cabah,  
La ilaha illa 'llah akan tali yang teguh.

Barang siapa bergantung di situ,  
teduhlah selebu yang rencam itu,  
pedoman betuli perahumu laju,  
selamat engkau ke laut itu.

La ilaha illa 'llah jua yang engkau ikut,  
dilaut keras topan dan ribut,  
hiu dan paus dibelakang menurut,  
pertetaplah kemudi jangan terkejut.

## 小船の詩

汝の小船を頑丈にせよ、  
汝が通る河口は狭い、  
そこには魚や鯨が多くいて、  
そこを通る汝の小船を待ちうける。

河口は深く、魚も多い、  
そこで、小船が沈み、壊れる、  
岩は鋭く尖り、槍のようだ、  
砂の上へ、汝は押し出される。

未知の人よ、汝は知っている、  
さざ波は乱れ、波浪は荒れ狂う、  
魚が多く襲いにやってくる、  
空間にかっ攫おうとして。

その河口は頗る狭い、  
何処を小船や筏が通るのだろうか、  
もし羅針盤があるなら支えられる、  
遙かなる旅路を全うせよ。

汝の小船を頑丈にするがよい、  
錨の綱で上陸用具をつくれ、  
風は強く波浪は荒れ狂う、  
泊地の島は遠い。

上陸用具や錨の綱を完全にせよ、  
速かな汝の動きは多くの敵に会う、  
むちゅうで突進せよ、波は狂奔する、  
アラーの神よ、綱の堅牢ならんことを。

そこを頼りにするものは誰でも、  
はてしなき大洋よ、静かなれかしと、  
羅針盤を直せ、汝の小船は速くなる、  
汝はあの海へ行くと安泰だ、

汝が従うのは唯一神アラーの神だけなのだ、  
海では台風や嵐が強い、  
鯨や鯨があとに従う、  
舵を定めよ、おどろくな。

Laut Sailan terlalu dalam,  
di sanalah perahu rusak dan karam,  
sungguhpun banyak disana penyelam,  
larang mendapat permata nilam,

Laut Sailan Wahid al-Kahhar,  
riaknya rencam ombaknya besar,  
anginnya songsongan membelok senakgr,  
perbaiki kemudi jangan berkisar.

Itulah laut yang maha indah,  
kesanalah kita semuanya berpindah,  
hasilkan bekal dan juadah,  
selamatlah engkau sempurna musyahadah.

Sailan itu ombaknya kissah,  
banyaklah akan kesana berpindah,  
topan dan ribut terlalu azamah,  
perbetuli pedoman jangan berubah.

Laut Kalsum terlalu dalam,  
ombaknya muhit pada sekalian alam,  
banyaklah disana rusak dan karam,  
perbaiki na'an siang dan malam.

Ingati sungguh siang dan malam,  
laut deras bertambah dalam,  
anginpun keras ombaknya rencam,  
ingati perahu jangan tenggelam.

セイロンの海は頗る深い,  
そこでは小船が壊われたり、沈む、  
潜水夫はそこに多くいるけれど、  
サファイアの宝石採取は禁じられている。

セイロンの海は唯一無二で、全能の神だ、  
波紋ははてしなく波は大きい、  
風は向い風、漕手の坐席をかえよ。  
旋回しないように舵をなおせ。

それが最高の美しい海なのだ、  
そこへ我々は皆移るのだ、  
食料をつくりだせ、  
完全に清純で安泰だ。

セイロンは波が物語だ、  
そこへ移る人は多い、  
台風や嵐がとても怖ろしい、  
羅針盤を直せ、変えてはいけない。

紅海は非常に深い、  
波は凡てを抱擁する、  
そこでは壊れ沈んだものが多い、  
それで昼も夜もなおすのだ。

昼も夜もよく覚えておくんだ、  
海は潮が速くて深さを増す、  
風は強く波ははてしない、  
肝に銘ぜよ船が沈んではならないことを。

このハンザ ファンスリの詩に対し、ウィンステッド(R. O. Winsted) は、ティユやズベル ウスマンと異り、シャイルに用いられている語彙のうえからみて、現在みられる形態のシャイルで、最も古いものは概ね15世紀頃で、おそらく Ken Tambuhan がその頃の作品に当るのではないかと考えている。ウィンステッドのいうごとく、ハンザ ファンスリの Syair Perahu と Syair Ken Tambuhan の間に語彙のうえで、どれ程の時代的相違があるかどうかをみるため Syair Ken Tambuhan を「古インドネシア文学」から抜萃し、検討してみよう。

#### Syair Ken Tambuhan

Di tengah taman sebuah kolam,  
tepinya diikat batu pualam,

#### タンボーハン姫の詩

花園の中に一つの池がある。  
その縁は大理石で固めてある、

airnya jernih tiadalah dalam,  
sekadar boleh tempat menyelam.

Beberapa banyak pula istana,  
beratur dengan jembatan ratna,  
kuntum dan bunga berbagai warna,  
burung dan unggas berjenis di sana.

Di dalam taman sebuah balai,  
perhiasaannya indah tidak ternilai,  
bertulis awan bunga bertangkai,  
lukis dan gambar berbagai-bagai.

Balainya diperbuat empat puluh ruang,  
tingkapnya berukir berkerawang,  
beratur cermin kaca diselang,  
disinari syamsu gilang gemilang.

Disanalah berihimpun segala puteri,  
beserta sekalian anak menteri,  
dititahkan oleh permaisuri,  
duduk bertenun sehari-hari

Putera baginda bernama Kertapati,  
arif dan bijak perwira sakti,  
parasnya laksana "yang" sejati,  
segala yang melihat dihati.

Diperbuatkan baginda sebuah istana,  
lengkaplah dengan jambangan ratna,  
segala permainan ada disana,  
tempatnyanya Inu yang bijaksana.

Tujuh belas tahun umur anakanda,  
terlalu kasih ayahanda dan bunda,  
beberapa kerani yang muda-muda,  
sekaliannya anak menteri berinda.

Selamanya besar Raden Menteri,  
makin bertambah ramainya negeri,  
memalu gameran sehari-hari,  
berjenis permainan sahaja dicari.

水は澄んでいて深くない、  
潜るに適している。

また宮殿もいくつかある、  
宝石の橋がしつらえてある、  
蕾や花がさまざまな色をしている、  
そこには幾種類もの鳥類がいる。

庭には一つの亭がある、  
装飾はとても美しい、  
柄のある花や雲の絵が画かれている、  
さまざまな絵が画かれている。

亭は40の部屋がある、  
窓は透し細工の彫刻がしてある、  
鏡とガラスが交互にあしらってある、  
太陽に映えて美しく輝いている。

そこにすべての王女たちが、  
大臣の子供たちと集まり、  
王妃により命ぜられる、  
坐って機織するように。

陛下の王子はクルタパティと言い、  
聡明で超能力をもつ勇者である、  
その容姿は聖なる神のようだと、  
見る人は皆心の中でおもう。

陛下は王宮を造り、  
宝石の花瓶で装飾の仕あげをした、  
凡ゆる遊戯具がそこにある、  
そこは聡明なイヌのいるところだ。

令息は17才であった、  
両親の愛は頗る篤かった、  
若干の職員たちは若かった、  
凡て老いた大臣の子供だった。

いつも貴族や大臣は偉大で、  
国はますます栄え、  
毎日ガメランを鳴らし、  
さまざまな遊びが求められる。

Anak menteri yang muda-muda,  
belajar memanah di atas kuda,  
senantiasa berhadir, khali tiada,  
sedia melayani putera baginda.

Tersebutlah kisah suatu peri,  
ceritera Ratu di Angka Diri,  
baginda berputera seorang puteri,  
paras laksana anak-anakan baiduri.

Adalah kepada suatu hari,  
bermain ketaman Raden Puteri,  
diiringi sekalian anak menteri,  
inang mengasuh kanan dan kiri.

Sudah bersiram lalu memakai,  
terus duduk di atas balai,  
menggubah bunga berbagai-bagai  
ada berkarang ada bertangkai

Ramainya tidak lagi terperi,  
dengan dayang-dayang anak-anak menteri  
ada setengah tunduk menari,  
datanglah pertanda dewa jauhari.

Sekonyong-konyong gelap gulita,  
matahari-tidak kelihatan nyata,  
kilat dan petir jangan dikata,  
sekaliannya terkejut lemah anggota.

Datanglah dewa dengan hebatnya,  
disambarnya puteri serta pengasuhnya,  
gaib dari mata dayang sekaliannya,  
masing-masing terkejut dengan tangisnya.

若い大臣の子供たちは、  
馬上で矢を射ることを学んだ、  
いつも出席し、欠席はしない、  
陛下の王子に仕える用意がある。

ある事件の物語が述べられている、  
アンカ・ディリの王の物語である。  
陛下には一人の王女があった、  
容貌は猫眼石人形のように美しかった。

ある日のことであった、  
姫君の庭へ遊びに来た、  
凡ての大臣を従えて、  
右左に付添女官もいる、

水浴びをしてから衣服をつけて、  
すぐに腰かけに坐り、  
さまざまな花輪をつくる、  
花を刺したり、柄をもったりしている。

賑やかさは言うに言えない、  
女官や大臣の子供たちで、  
ある者は頭をさげて踊っている、  
宝石の鑑別人がやって来た。

突然真暗がりになり、  
太陽ははっきり見えない、  
閃光や稲光りは言うに及ばず、  
凡ての者は驚いて力がなくなった。

男神は凄じい勢いでやってきた、  
姫と女官は攫われた、  
すべての者が待女の中から消えた、  
各々の者は泣いて驚いた。

上に述べた Syair Ken Tambuhan も、さきに述べた Syair Perahu と同様シャイルの特徴とする脚韻形式、各節の行数、各行の語数、各語の音節数など、シャイル成立に対する必要な原則的条件を充している。ウインステッドはシャイルの創作年代を識別する方法の一つとして、シャイルに用いられている語彙が、どのような時代に属するかによって、そのシャイルが創作された時代を考える根拠とした。語彙は新陳代謝により、時代と共に変遷するから、その考え方は一応正しいと言えよう。しかし、語彙の形のみをもって、シャイルの創作年代を識別するための唯一

の条件とすることはできない。やはり対象するシャイルの内容や創作当時の社会的背景などの総合的判断によって、はじめて合理的な創作年代を考えることができるのではなからうか。視点を形式と語彙に立って考えてみても、Syair Perahuをはじめとするハンザ フェンスリにより創作された他の多くのシャイルとの間に、明確な時代性を劃するための基準を設けることは困難である。

ズベル ウスマンもシャイルをより一層古いものと古いものに分け、より一層古いものをSyair Bidasari, Syair Ken Tambuhan, Syair Yatim Nestapa とし、古いものをSyair Panji Semirang, Syair Puteri Hijau, Syair Anggun Citunggal, Syair Mambang Jauhari としているに過ぎない。この事実はシャイルが生れた時代を識別することが頗る困難であることを示すものである。実証性という観点からすれば、この分け方には十分な論拠があるとは言えない。それで結局、ティユが述べているように、ハンザ フェンスリの作品を以て最も古いシャイルということになるが、ハンザ フェンスリは16世紀から17世紀にかけて生存していた唯一の詩人であることと、創作年代を明らかにすることができるシャイルはハンザフェンスリによるものだけであるので、現在のシャイルの形態の源流は彼の作品にあると言う考え方は客観性をもつものと言える。

これに反し、Syair Ken Tambuhan は15世紀の作品であるとするウィンステッドの想定は、実証性に欠けていると言わなければならない。それで結論としては、やはりハンザ フェンスリのシャイルをもって、現在のシャイルの最も古い形態であるということになる。たゞこの場合、当然考えられる問題は、1380年の記録を有するミニェ トゥジョの詩が創作されてから17世紀まで、約2世紀の間はたしてそれに類するような詩が現われなかったのであろうかという疑問が残る。

### シャイルとパントゥンの比較

シャイルとパントゥンの類似性や相違を考察することは、インドネシア文学全体の中に両者を位置づけるうえに、頗る重要な問題である。シャイルはすでに明らかにしたごとく、インドネシア人の手により、アラブ・ペルシア詩の要素をとり入れて創作された古代詩であるのに対し、パントゥンはインドネシア固有の典型的な古代歌謡であるところに、まず発生的な相違がみられる。しかし、形態のうえからすると、シャイルもパントゥンも、共に4行からなり、各行の音節数は8—13音節、これは平均すると、10音節になるが、語数になおして4—5語で、両者は類似性が強い、ただ脚韻はシャイルが原則的にAAAAの形式を踏むのに対しパントゥンはABABからなる。

—Syair—

Tidak jauh di tepi kota,  
sehuah kampung kelihatan nyata,

町はずれに、ほど遠くなく、  
ひとつの村がさだかに見える、



di sinari bulan semua rata,  
disanalah asal pokok cerita,

凡てが月にくまなく照されて,  
そこに「話」のいずみがある。

Sebuah rumah sedang besarnya,  
bagus dan kokoh kuatannya,  
pekarangan luas dengan tamannya,  
berhiaskan bunga sangat indahnya.

頃合いの大きさの家が一軒ある,  
造作が素晴しくて堅牢だ,  
前庭に花園があって広い,  
花で華美にされ、とても美しい。

古い時代のシャイルにおいては、一般に AAAA の脚韻形式を踏むが、1900年以降に創作されたシャイルにあっては、不完全韻も混入しているばかりでなく、パントゥンのように頭韻を4行とも合わすものも稀にある。

Aneka warna khabernya ada,  
akan penambah ilmu di dada,  
agar kemajuan jangan-tergola,  
ambillah panji bergurau sunda.

さまざまな情報がある,  
学問知識を加えるために,  
進歩が妨げられぬよう,  
パンジー誌を気軽るに読み給え。

Naskahnya baik semua pandan,  
nasihatnya banyak boleh didandan,  
nasnya banyak jadi teladan,  
nurnya semerbak penawar dadan.

草稿はすべて適当でよい。  
忠言が多く、美化されてよろしい、  
訓戒が多く、手本となる、  
その光彩は広がって清涼剤となる。

シャイルは通常頭韻が4行とも揃っていないのが普通の形で、揃っているのは実に稀であると言わねばならない。しかしパントゥンにおいては、古い時代のもの、新しい時代のものを問わず、脚韻形式は若干の例外を除き、すべて ABAB である。韻はシャイルと同様完全なものもあれば、不完全なものもある。古い時代のシャイルには4行とも頭韻を合わすものはないが、パントゥンには4行とも頭韻を揃えるもの、頭韻を交互に合わすもの、中間韻を交互に合わすものなどのほかに、不完全韻ではあるが、脚韻をシャイルのように4行とも AAAA の形式に揃えるものがあるなど、多様性に富んでいる。

#### —Pantun—

##### (1) 頭韻式繰返し

Dari man punai melayang,  
Dari paya turun kepada,  
Dari mana kasih sayang,  
Dari mata turun ke hati.

何処から野鳩は翔んで来る,  
沼地から稻穂へ舞い降りた,  
愛は何処からやって来る,  
目から心へ降りて来た。

##### (2) 頭韻交互式繰返し

Sudah tahu peria pahit,  
siapa suruh petik bunganya,

すでに知っている瓜は苦いことを,  
誰がその花を摘ましたの,

sudah tahu dia tak baik,  
siapa suruh dari mulanya.

すでに知っている彼はよくないことを、  
誰がはじめてから命じたの。

(3) 中間韻式繰返し

Padi muda jangan dilurut,  
kalau dilurut pecah batang,  
hati muda jangan diturut,  
kalau diturut salah datang.

若い籾を擦り落としてはいけない、  
擦り落とすと茎がこわれる、  
若い心を従わすな、  
従わすと誤ちがやってくる。

(4) 脚韻式繰返し

Kemumu tengah pekan,  
diambut angin jatuh ke bawah,  
ilmu yang tidak diamalkan,  
bagai pohon tidak berbuah.

市場の中の海草は、  
風に吹かれて落ちにけり、  
学びの業の由なきは、  
稔りなき樹のたぐいなり。

Terang bulan terang di kali,  
buaya timbul disangka mati,  
jangan percaya mulut lelaki,  
berani sumpah takutlah mati.

月の光は川面に輝いて、  
鰐は死んだように浮んでいる、  
男の言葉を信じるな、  
勇敢に誓うが死ぬのは怖い。

上例の最後のパントゥンは、脚韻形式が AAAA であるので、恰もシャイルのように見えるけれども、音節のうえからみると1行目と3行目の最後の語の最終音節は li, ti, 2行目と4行目の最後の語の最終音節も ti となっているから、これはシャイルではない。また、この種4行詩は前詞2行と本詞2行に分けることができ、前詞2行は後に続く本詞2行の比喩または象徴としての機能をもち、歌意は本詞にある。従ってこれはシャイルではなくパントゥンであることが明らかである。

(5) 尻取式繰返し

Singkarak kotanya tinggi,  
asam pauh dari seberang,  
awan berarak ditangisi,  
badan jauh di rantau orang.

スィンカラックは高地にあり、  
マンゴ売りは対岸よりやって来る、  
うろこ雲に涙し、  
出稼の身は遠く異郷にある。

Asam pauh dari seberang,  
tumbuhnya dekat tepi tebat,  
badan jauh di rantau orang,  
sakit siapa akan mengobat.

マンゴ売りは向う岸からやって来る、  
マンゴの樹生えているのは堤の近く、  
出稼の身は遠く異郷にある、  
誰が癒してくれる身の病氣。

これらの例によって明らかなごとく、パントゥンは韻律の多様性により美化される詩であるが、シャイルには韻律の多様性はみられない。元来、パントゥンは男女の「掛け合い歌」であるから、相手をひきつけるため、心魂を傾倒して歌わねばならない性質のものである。それが自然と優れ

たパントウンであるよう相手や聴衆に認められるようにするため、工夫が施され、現在のごとき多様性に富む韻律が生れる結果になったものと考えられる。

シャイルは歌の内容を諄々と述べることによって、目的が達せられる詩であるから韻の多様性により相手や聴衆の心を捉える必要がない。むしろ物語それ自体が重視されるものと言えよう。シャイルの構造は前詞2行と本詞2行に分けないで、4行全体をもって一節を構成する。各節はパントウンのように象徴的な部分と、歌意のある部分に分けることなく、次から次へと連繋する。パントウンには形を変形してABABBとするものがあるほか、各節の行数を追加して6行、8行、12行、14行へと拡大をはかるタリブン (Talibun) と称する一種のパントウンがある。しかし、シャイルは如何なる場合にあっても4行で、4行を繰返えすことによって物語が延長し、展開されるのである。

シャイルは歴史的な出来事の内容とする叙事詩であるが、パントウンはすでに述べたごとく、男女の掛け合いによって歌いあげる詩歌である。両者共に道徳的教訓を内容としたものもある。たゞパントウンの前詞2行は自然の情景を詠むことを原則としているので、素朴であるが、幾分叙情的なものとなっている。シャイルのテーマは概ねヒカヤマト (hikayat)、すなわち古い時代の出来事や物語で、これは王宮を中心として展開される王子・王女の恋愛、嫉妬、憎悪、反目など人間感情をめぐる有為転変の世界を描写したものが多い、もちろん多角的なイズムを包蔵する現代の文学的視野からすれば、単純、素朴ではあるが、古い時代の文学としては、それなりの評価を与えることができる

### 新しい時代のシャイル

ソネット (Soneta) や自由詩のごとき近代詩の出現により、シャイルは時代の流れからとり残された。これはシャイルの文芸価値が、ソネットや自由詩よりも優れていないことを意味するものである。言い換えれば、シャイルは、パントウンなどと異り、人の心に訴え、人をひきつけるものが見られないことに因ると言えよう。

古い時代のシャイルにあっては、語の選択は入念に行なわれないで、単に語を配列するに過ぎないものもあるばかりでなく、ときには難解な外来語（主としてアラビア語）をもちいるものもあり、深い感銘を与えない。一方、情景の描写も展開する物語の中に、次から次へと繰返して述べられるに過ぎないので、心の琴線に触れるものがない。これは古い時代の社会とシャイルの機能という見地からすると、そのようなこともやむを得ないものがあると言わざるを得ないであろう。シャイルの形式で物語を詠吟する場合、優先的に考えねばならない要素は、物語の内容と韻律である。聞き手は語り手の述べる言葉が正しいかどうかを問題にしない。要は内容である。悲しければ共に歎き、嬉しければ共に喜びを感じるものであれば、シャイルとして充分な機能をもつものであるといえる。古い時代のシャイルについては、すでに多くの例をあげたので、ここでは日本の軍政時代につくられた比較的新しいシャイルを掲げることにする。

## Kadi yang cerdas

Adalah pada suatu hari,  
s'orang kadi dalam negeri,  
sedang berjalan s'orang diri,  
hatinya susah tidak terperi.

Pikiran kusut bukan buatan,  
matanya kabur hilang ingatan,  
taman istana tidak kelihatan,  
tempat bermain puteri sultan.

Maksudnya hendak berjalan pulang,  
tetapi memang nasibnya malang,  
karena hatinya sangatlah walang,  
satupun tidak tampak mengalang.

Kadipun masuk ketika itu,  
ke dalam taman berpagar batu,  
taman larangan nyatalah tentu,  
sana bermain puteri ratu.

Kadi tertangkap dengan segera,  
diikat tangan oleh perwira,  
lalu menghadap sultan negara,  
kadi dituduh berbuat curang.

Rajapun murka bukan seperti,  
kepada kadi yang jahat pekerti,  
hukuman jatuh tidak menanti,  
kadi bersalah dihukum pasti.

"Ampun Tuanku Sultan bahari"  
sembah tuan Kadi berhati ngeri,  
seri apalah janji sehari,  
patik memilih kematian diri.

Besok patik akan kembali,  
datang kemari menjunjung duli,  
bolehlah patik dibunuh s'kali,  
dipancung atau digantung b'tali.

## 賢明な裁判官

ある日のことであった、  
国内に一人の裁判官がいた、  
独りで歩いていた、  
彼の心は何とも言えぬ程憂鬱だった。

思いは頗る乱れていた、  
目はぼんやりとし、思考力はなかった、  
王宮の庭園は見えなかった、  
サルタン王女の遊び場であった。

彼は帰ろうと思っていた、  
しかし、もちろん運命は不幸であった、  
というのは彼の心は頗る乱れていた、  
何一つとして妨げるものは見えなかった。

そのとき裁判官は這入ってきた、  
石垣のしてある庭園の中へ、  
勿論禁制の庭園であることは明らかだ、  
王女が遊ぶのはそこである。

裁判官はすぐ捕えられた、  
衛士の手で縛られた、  
それからサルタン国王と対面した、  
裁判官は軽率な振舞いを訴えられた。

王は大変怒った、  
おこないの悪い裁判官に対し、  
懲罰は猶予されなかった、  
罪を犯した裁判官は当然罰せられる。

お赦し下さい、博学なサルタン陛下、  
裁判官はおそろおそろ申し上げた、  
陛下今日のお約束をどうぞ、  
わたしは自殺を選びます。

明日戻ってまいります、  
ここへお邪魔にまいります、  
わたしはひと思いに殺されてよろしい、  
首をはねられるか絞め殺されてよろしい。

Hanya sebuah patik pohonkan,  
diharap sungguh duli kabulkan  
besok pagilah patik sembahkan,  
suatu kabar duli dengarkan.

Jikalau salah patik berkata,  
sembah patik bohong dan dusta,  
tidaklah benar semata-mata,  
harap digantung patik yang leta.

Tetapi patik bermohon pula,  
jikalau kata benar segala,  
sembah patikni tidak bercela,  
patik dipancung penggal kepala.

ただひとつだけお願いがあります、  
本当に陛下同意されるよう望みます、  
明朝わたしは申し上げにまいります、  
ひとつのニュースを陛下お聞き下さい。

もしわたしが間違ったことを言い、  
わたしが王様に嘘を申し上げ、  
明らかに本当でないなら、  
下賤なわたしを絞首の刑にされることを  
望みます。

しかし、わたしはまたお願いします、  
すべて本当のことを申し上げ、  
このわたしの申し上げていることに欠陥  
がないなら、  
わたしは断頭の刑にされます。

このシャイルはこれまでのシャイルに較べると、韻をもった語の選択は他のシャイルよりも優れているばかりでなく、語の配置も適当である。このシャイルは韻のうえからだけでなく、音節数も法則に適合している。しかし、シャイルという詩は上に述べた要素だけでなく、それ以上のもの、すなわち韻律がある。韻と語は感情を高めたり、弱めたりするが、その機能を全うするためには、韻の完全な連繫を必要とする。このシャイルは、日本の軍政時代に創作されたものであるが、そのような意味からすると、新しい時代のシャイルとは言えない。新しいシャイルというのは、それが生れた時点を問題にするのではなくて、創作者の心魂から迸り出た語句が問題なのである。語句には、生命と靈感が宿っている。新しいシャイルは生命の迸りと時代精神に支えられたものであり、古い慣習に随うものであってはならない。このような新時代におけるシャイルの性格をもった作品を文芸的な視野において、求めることは、すこぶる困難である。新しい感覚を具えたシャイルと古い時代のシャイルとの過渡的な時代の作品としてあげられるものに、アバース スータン パモンチャック (Abas Sutan Pamoncak) の創作にかかる「富士山の詩」(Syair Gunung Fuji) がある。

#### Gunung Fuji

Jika belayar di Teluk Tagonoura,  
pemandangan melayang menembus udara,  
Fuji no yama terang kentara,  
gunung yang indah tidak terkira.

Menjelang tinggi sampai mengawan,  
puncaknya putih berkilau-kilauan,  
ditutupi salju permai rupawan,  
menimbulkan hati senang merawan.

#### 富士の山

田子の浦を船出すれば、  
大気をつんざいて景色は移りゆく、  
鮮やかで、明るい富士の山、  
美しい富士の山は言葉で表わせない。

雲の上まで高く聳え、  
頂きは白くきらきらと輝いている、  
雪に蔽われて、とても美しい、  
心は楽しく感動をよびおこす。

このシャイルは叙情性もあり、文学的な薫が滲っている Syair kadi yang cerdas と比較すると、一歩前進したシャイルと言えよう。しかし、上に述べたシャイルについてスータン タクデ イール アリシャバーナ (Sutan Fakdir Alisyahbana) は「心魂を吐露したシャイルは古い規矩に掬われないものでなければ、活きた詩的感覚という見地からすると、優れたシャイルとは言い難い」と述べている。アリシャバーナのいうごとくこのシャイルには画竜点睛を欠くきらいはあるが、自然の情景を巧みに描いている点は、評価できる。第二次世界大戦中に創作された詩歌には、その当時の人間模倣や微妙な心理状態を詠んだものはすくないが、シャイルの形をとったのは稀である。

### シャイルの分類的考察

現在のインドネシア文学にみられるシャイルの数はシモランキールとシマンジュンタックの共著にかかる「インドネシア文学」(Kesusasteraan Indonesia) によると、パントウンの数より多いとされている。分類をするに当り、まず最初に考えねばならないことは、基準を何におくかということである。形態も考えられるが、系統や内容、長さも考えられる。形態という見地からすると、シャイルはすべて同じであるので、その作業は直ちに行詰りを生ずる。また系統はアラビアであるのか、ペルシアであるのか、インドであるのか、更にはまたジャワであるのかというように、好むと好まざるに拘らず内容と結びつくわけで、内容を離れることはできない。結局内容を基準とするほかに適当な分類の方法を求めることはできない。しかし、内容なるものも頗る多岐に亘るので、これを集約してひとつのカテゴリの中にまとめることは困難であるが、概ね次のように考えることができる。

歴史的な出来事をテーマとして描写したもの——古代の出来事を題材にしたシャイルも少ない。しかし、古マレー・インドネシア史と西洋史とでは、实际的に異なるものがある。この理解なくしては古マレー・インドネシアの古典に対する評価が変る。古い昔のマレー・インドネシア史の専門家により考えられていた歴史上の事件は、その当時の掌に当たった人たちの目に映じた構想であった。ある著名なインドネシア古代史の専門家は Hikayat Raja-raja Pasai の研究において、この史書の叙述は主観的であって、客観的でない描写をしていると述べている。この事実は Hikayat Aceh, Silsilah Kutei, Hikayat Johor などの史書を見ても、明らかに言えることである。

このような創作者の主観に基づいてつくられている歴史的シャイルには、Syair Banjarmasin, Syair Perang Makasar, Syair Musuh Kelantang, Syair Spilman, Syair Perang Menteng, Syair Singapura dimakan api, Syair Puteri Naga di Japa' Tuan など多くのものがある。

浪漫的、架空的な世界や古代物語に取材するもの——王子、王女の恋愛をめぐる欲びと悲しみ、中傷による苦惱、幻想的な天国、架空的な出来事を内容とするもので、この種のシャイルには Syair Burung Pungguk, Syair Yatim Nestapa, Syair Nuri, Syair Bidasari, Syair Dandan

Setia, Syair Seni Baniman, Syair Sitti Zubaidah, Syair Ikan Tambera, Syair di Lindung Delima, Syair Ken Tambuhan, Syair Kumbang dan Melati, Syair Damar Wulan, Syair Puteri akal, Syair Ceritera Wayang などこのグループに入れられるものも多い。これらのシャイルに曲節を付して謡うときは、心の深奥に滲透するものがあると言われる。

神秘幽玄、宗教的な性格をもつもの——浪漫的な幻想を謡うものではなく、幽玄の流れを汲む、宗教的な性格をもつシャイルで、この分野における最初の詩人はハンザ ファンスリである。全氏の創作にかかる詩は神秘幽玄の世界を指向するもので Syair Perahu, Syair Burung Pinggai, Syair Dagang, Syair Fakir などのシャイルがある。ハンザ ファンスリ以後は神秘幽玄の詩は見られなくなり、多くの浪漫的なシャイルになっている。

比喩、風刺、社会文化を内容とするもの——比喩や風刺を用いて訓戒または教訓を与え、社会を教化する目的を有するシャイルで、Syair Nur Muhammad, Syair Sidi Ibrahim, Syair Injil, Syair Ibadat, Syair Kiamat, Syair Orang Makan Madat, Syair Pelanduk Jenaka などがあるが、浪漫的及至は架空的な世界を描いたシャイルには、比喩や風刺をもちいているものも多い(浪漫的、架空の世界に取材するシャイルの項参照)。

ひと口にシャイルの分類といっても、簡単に考えるわけにはいかない。と言うのは、インドネシア人社会に密着している比喩や風刺が、文学、なかんずくシャイルの分野等で深く滲透しているからである。比喩や風刺が大部分の浪漫的なシャイルに及んでいることは、マレー・インドネシア文学では異とするに足りないので、サバは比喩や風刺の項目を設けなかったものと推察される。それも一方法として理解できるが、全然比喩や風刺をもたないシャイルの数も少くないことを忘れてはならない。それで結論的に、この小論にみられるような分類法をとったのである。今後とも、シャイルの分類に当っては、比喩や風刺の問題をどのように考えるべきかについて、より深い研究がなされて然るべきであろう。

## お わ り に

シャイルという形式の詩は、元来、物語を詩歌の形にしたものであることは、すでに述べた多くの例により明らかにしたとおりである。物語をシャイルと呼ばれる詩の形式にするには、一定の規則を必要とする。その形式の基底乃至は要素を古マレー・インドネシア人はアラブ・ペルシア詩に求めて4行—13行とし、脚韻をAAAAになるよう配慮した。このような形式は物語を叙事的に述めるのに適している。はたしてそうであるか、どうかは別問題として、物語を諄々と説き、聞き手を魅了し、物語の中にひき入れるような詩歌は、静的な古代社会に応わしいものであったことは確かである。しかし、近代の動的な社会においては、必ずしもそうであるとは言えない場合が多い。このような視点から時代の流れと、詩の在り方に早くから覚めたのは、プージャンガ バルー (Pujangga Baru) 創始者の一人であり、インドネシアの詩歌はもちろん、西欧の詩歌の動向にも通暁していた詩人アミール ハンザ (Amir Hamzah) をはじめとするプージャンガ

バルー時代の詩人たちで、彼等は好んで新時代に応わしい詩の形態をとり入れ、それに従って動的社会に応わしい発刺とした活力にみちた詩をつくりはじめた。

その代表的な新体詩の自由詩は、ヤシン (Jassin) の著作にかかる Chairil Anwar (1951), Pujangga Baru (1962), Amir Hamzah (1962) などに、その秀歌が掲げられている。近年インドネシア及びマレーシアで発行されている詩集はパントゥンが圧倒的に多いが、それを除けばいずれも新体詩、自由詩の詩集で、シャイルは古い時代のシャイルを再版したもの以外には見当たらない。現在見られる新体詩、自由詩の詩集はインドネシア、マレーシア共にそれぞれ数十種にのぼる。これは明らかにシャイルは新体詩、自由詩により圧迫されて形骸化していることを意味するものと推測される。このような現象が見られる主な理由は、冗漫な物語を叙事詩化したシャイルには、心の閃めきがみられず、それを聞く人の琴線にはふれないので、テンポの速さと感動を求める現代人には容け入れられなくなったものと考えられる。

#### 注

- (1) Madah または Masnawi の形式と韻  
Umar yang adil dengan perinya  
Nyata pun adil sama sendirinya  
Dengan adil itu anaknya dibunuh  
Inilah adalat yang benar dan sungguh  
Dengan bedah antara isi alam.  
Ialah yang besar pada siang malam  
Lagipun yang menjauhkan segala shar  
Imamulhak kedalam padang mahsyar  
Barang yang hak Ta'la katakan itu  
Maka katanya sebenarnya begitu.
- (2) Rubai の形式と韻  
Subhanahu Allah apa hal segala manusia  
Yang tubuhnya dalam tanah jadi duli yang sia  
Tanah itu kujadikan tubuhnya kemudian  
Yang ada dahulu padanya terlalu mulia.
- (3) Kit'ah の形式と韻  
Jikalau kulihat dalam tanah pada ahwal sekalian insan  
Tiadalah kudapat bedakan pada antara rakyat dan sultan  
Fana juga sekalian uang ada, dengarkan yang Allah berfirman  
Kulluman'alaiha fa'nin, yaitu  
Barang siapa yang diatas bumi itu lenyap jua.
- (4) Gazal の形式と韻  
Kekasihku seperti nyawapun adalah terkasih dan mulia jua  
Dan nyawaku pun mana dari pada nyawa itu jauh ia juga  
Hanya jika pada nyawa itu hampir dengan sedia suka juga  
Nyawa itu yang menghidupkan senantiasa nyawa manusia juga



- Dan menghilangkan cintanya pun itu kekasihku yang setia juga  
 Kekasihku itu yang mengenak hatiku dengan rahasia juga  
 Bukhari yang ada serta nyawa itu ialah berbahagia juga.
- (5) Nazam の形式と韻  
 Bahwa bagi raja sekalian  
 Hendak ada menteri demikian  
 Yang pada sesuatu pekerjaan  
 Sempurnakan segala kerajaan.  
 Menteri inilah maka torn raja  
 Dan peti segenap rahasianya saja  
 Karena kata raja itu katanya  
 Esa artinya dan dua adanya.  
 Maka menteri yang demikianlah perinya  
 Ada keadaan raja dirinya  
 Jika raja dapat adanya ita  
 Dapat peti rahasianya itu.
- (6) Jahilia はマホメットがメッカからメジナへ移った西暦622年より以前の時代を言う。
- (7) Hamza Fansuli は16世紀前半から17世紀後半にかけて活躍したインドネシアにおける回教の神秘学者。氏の文学作品には二つの散文 Syarab al-Asyikin と Asrar al-Arifin fi bayanilm al-suluk wal-tauhid のほかに, Syair Burung Pungguk, Syair Burung Punggai, Syair Sidang Fakir, Syair Dagang および Syair Perahu など多くの syair があり, その作品の景響は遠くジャワにまで及んだ。
- (8) Pujangga Baru は文学者 St. Takdir Alisyahbana, Armijn Pane, Amir Hamzah などの文学者により創設された新時代の文学・文化定期刊行機関誌。この機関誌を中心として, 多くの作家により多彩な文学活動が展開され, インドネシア文学史上新時代を劃した1933—1942年を Pujangga Baru 時代という。
- (9) Soneta 詩の歴史は13世紀に遡る。Sonet はイタリアからオランダを経て Pujanggn Baru 時代にインドネシアに齎された14行詩。脚韻形式は原則的には abba—abba—cdc—dcd であるが, インドネシアでは各行の韻の配置に変化を加えたものが多い。
- (10) Syamsuddin al-Samatrani: Hamza Fansuli の弟子で, 1603—1636年 Mahkota Alam にあった Aceh 王宮に住み, 翻訳, 著作活動に従事した文学者
- (11) Syaikh Nuridin ibn al Ranili: 古いイスラム教教義に固執したイスラム教文学者で, Hamza Fansuli や Syamsuddin al-Samatrani の文学作作品を信仰に危険を齎すものとして, Sultan Iskandar Thani の名において焼却を命じた。氏の著書に Bustanu's-Salatin (イスラム諸王の花園) がある。

## 文 献

Bimbingan Seni Sastera: R. B. Slametmulijana  
 Puisi Lama: Takdir Alisyahbana  
 Kesusasteraan Lama Indonesia: Zuber Usman B. A.  
 Kesusasteraan Indonesia: B. Simorangkir/Simanjuntak  
 Kesusasteraan Indonesia di masa Jepang: H. B. Jassin  
 Seluk beluk Bahasa Indonesia: Sabaruddin Ahmad  
 Sejarah kesusastraan Melayu: A Samad Ahmad  
 Azas pengetahuan puisi: Arena wati  
 Prinsip-perinsip Menganalisa Sajak: Shahidin bin Saidin

Langgam Sastera Lama : Gazali B. A.  
 The origin of the Malay Syair: Dr. Saguib Al-attas  
 Himpunan Sajak: Dewan Bahasa dan Pustaka  
 Pengantar Sastera: Dr. Abdul Rahman Al-Ahmadi  
 Syair Yatim Nestapa: Mohd Hasim aib B. A  
 Perintis Sajak-sajak Melayu: Ali Ahmad  
 Amir Hamzah: H. B. Jassin  
 Pujangga Baru: H. B. Jassin  
 Chairil Anwar: H. B. Jassin  
 Pantun Melayu: Balai Pustaka  
 Pantun Melayu: R. J. Wilkinson/R. O Winsted  
 Sejarah kesusasteraan Melayu: A. Samad Ahmad  
 Sejarah Kebudayaan Indonesia: Drs. R. Soekmo  
 Sejarah Bangsa dan Bahasa Melayu: Dr. Omar Amin Husin  
 Sejarah Indonesia: Sanusi Pane  
 Sejarah Ringkas Indonesia: L. Mariotomo dan A. Mitramartapa  
 زعبا: علم مغارغ ملايو  
 古代歌謡論: 土橋 寛著  
 古代歌謡集: 日本古典文学大系 (3)  
 大阪外国語大学学報 29号, 31号: 大阪外国語大学